

(様式第 7 号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：平成 29 年 4 月 25 日

作成者：浅葉 めぐみ

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

＊この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
特定非営利活動法人フードバンク関西	
事業名	日時（期間），場所
食のセーフティネット事業	平成 2 7 年 4 月から平成 2 8 年 3 月
内容（実績）＊実施したことを具体的に	受益者数
フードバンク関西が取り扱う、企業や個人から、商品としては扱えないが食べ物としては全く問題のない食品、使いきれない食品の寄贈を受け、それら食品を支援を必要とする人達を支える団体を通じて、困窮する市民に無償で届けるフードバンク活動をしています。平成 2 4 年に芦屋市社会福祉協議会とも事業協定を結び、芦屋市や芦屋市社協から支援要請を受けた市民に対し、各世帯人数に対し原則として 1 週間分の支援食品を当法人が準備し、社協あるいは行政担当者を通じて、対象となる市民に届けていただいています。平成 2 7 年度 1 年間に 3 7 件の支援要請に応えることが出来ました。	全体 4 6 0 件 (芦屋市 3 7 世帯)
	参加者数
	(ボランティア約 7 0) 人
成果（社会へのインパクト）＊どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
食べ物として全く問題がないのにも関わらず、売れ残った、箱が壊れた、ラベル印字ミス等の理由で廃棄されるかもしれなかった食品を、命をつなぐ糧として、有効に活用できます。それと同時に、市民の皆さまに食べ物の大切さを理解していただき、企業や個人の皆様から余った食べ物を寄付していただく等により、食べられるのに廃棄される食品の量を減らしていきたいと考えます。	

今後の展望（どのように継続、発展するか）
市民の理解と協力を得て、賛助会員とボランティアの数を増やし、日本に大量にある、安全に美味しく食べることが出来るのに廃棄されている食品の有効活用を行う活動をさらに拡大、発展させたいと願っています。食品の取扱量を増やして「もったいない食品」を廃棄から救出し、食のセーフティネットをはじめとして、他のプロジェクトにも活用し、支援を必要とする人達に心の余裕と安心を届けたいと思います。市民一人ひとりが出来ることをして、お互いに支えあう社会を作っていくことを目指したいと考えています。